

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 3月26日更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 36,500~41,600 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 36,500~39,900 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500~17,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000~152.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578~105.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

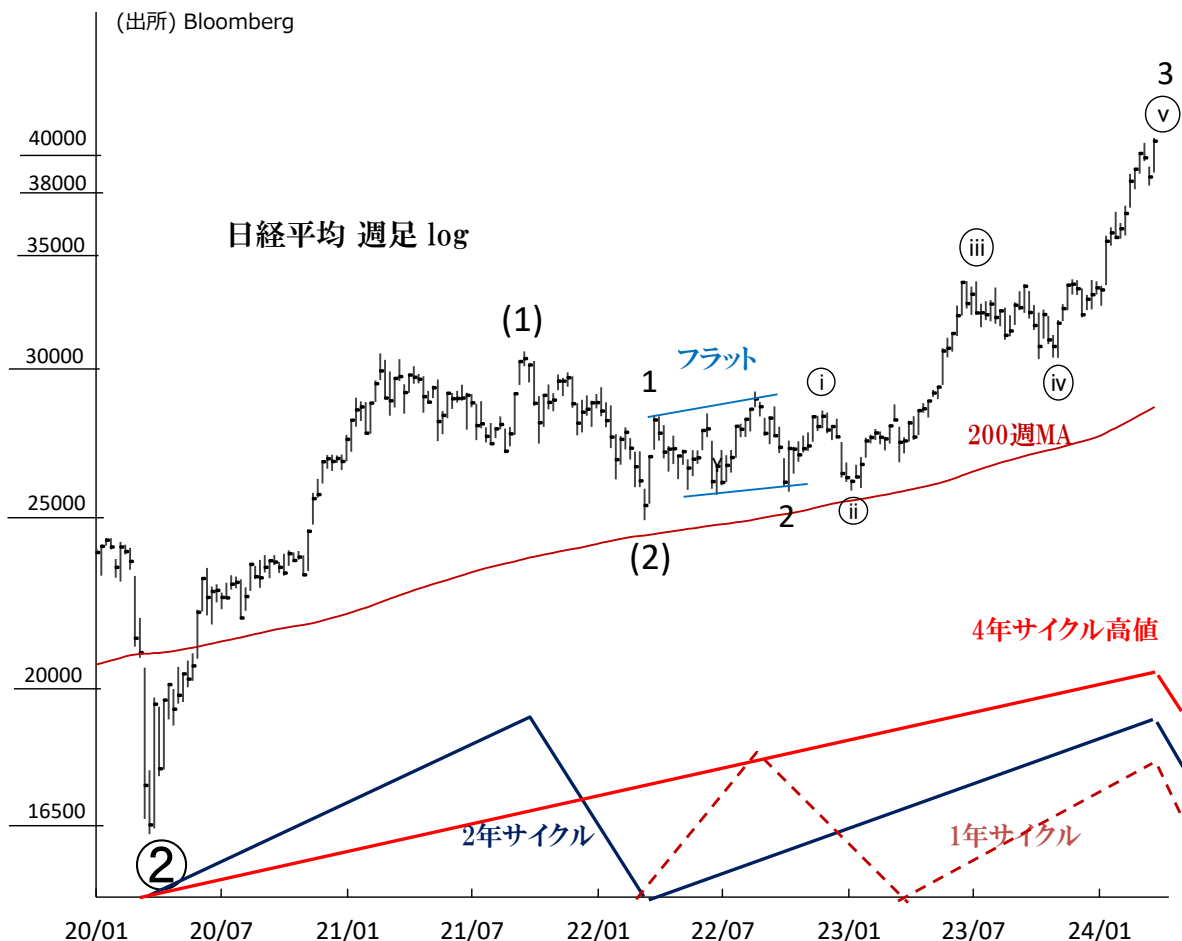
米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均

TOPIX は 89 年高値『2886.50』まで一定の距離を残しますが—現状の NT 倍率(14.59 倍)からみると TOPIX が最高値に並ぶには日経平均で 42,000 円程度が必要とされます—今年後半から来年にかけての最高値更新は可能でしょう。



【週足・エリオット波動分析】

3 月 21 日に日経平均は最高値を更新しました。40,472 円(3/7 高値)を以て③-(3)波「サード・オブ・サード」が終わった、という従来の見方は誤りでした。黄金比メドの[40,478 円]は確かに重要な節目ではありましたが、トレンドを変えるものではありませんでした。

そこで今回から波動カウントを以下のように改めます。

修正後カウントでは、24,681 円(22/3/9 安値)を③-(3)波の起点とし、25,621 円(22/10/3 安値)を(3)-3 波起点とみなします。この第 3 波の副次波(マル i~マル v)のうち、マル v 波による上昇が、30,538 円(23/10/23 安値)以来進行中と読みます。

この見方によれば、足元の上昇はマル v 波中最終局面に当たります。近々第 3 波は天井を付け、第 4 波による調整が始まるでしょう。

(3)-2 波はおおよそ半年間続く[フラット]でした。[オルタネーション(交互)]により、来る(3)-4 波はおそらく[ジグザグ]か[トライアングル]になるでしょう。日経平均は第 4 波により、高値から 10%-20%(5 千円~8 千円)程度下げる可能性があります。



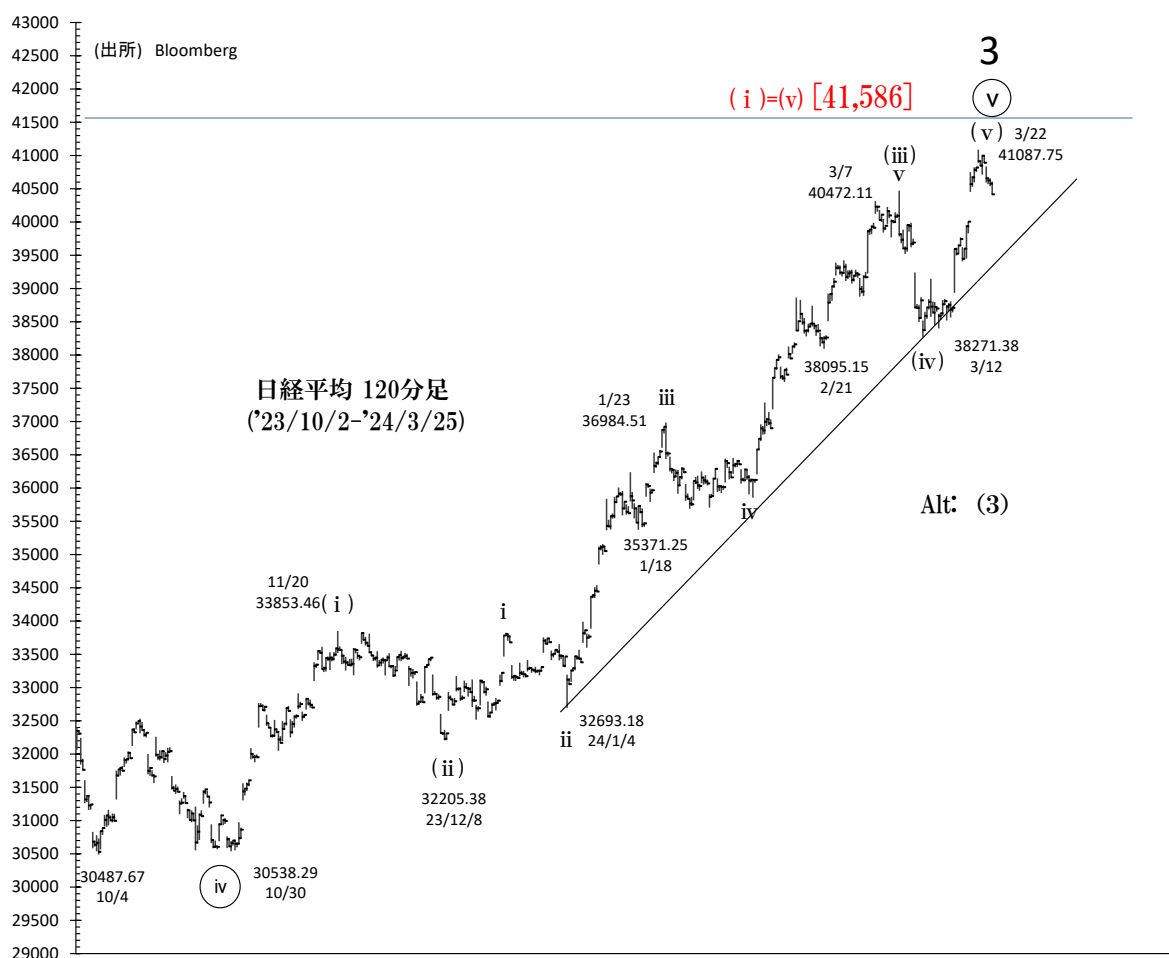
【日経平均 日足・エリオット波動分析】

22年10月3日安値(25,621円)を起点とする上昇第3波中、最後の上昇局面(マルv波)が23年10月30日安値(30,538円)から展開中とみられます。

日経平均の移動平均総合かい離は、3月4日に41.32%に広がった後も、引き続き「上がり過ぎ」※を示しています。

※移動平均総合かい離が30%以上の領域は「上がり過ぎ」とされます。3月25日時点は33.21%となっています。

次に示す時間足チャートを見ると、マルv波に必要な副次波は足元までにすべて揃っています。マルv波のピークアウトは近いとみられ、第4波の調整開始も接近していると思われます。



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

38,271 円(3/12 安値)以来の上昇は、マル v 波における第(v)波とカウントできます。

マル v 波の第(iii)波は—昨年 12 月 8 日安値(32,205 円)から今年 3 月 7 日高値(40,472 円)まで—延長(extension)した波です。

延長する波はひとつであり、残る二つの波は等倍になる傾向が強いとされます。つまり**現行の第(v)波は延長せずに、第(i)波と同じ程度上昇する可能性が高い**でしょう。

[41,586 円]…23 年 10 月から 11 月までの第(i)波上昇幅(3315 円)と、第(v)波の上昇幅が等しくなる水準直近高値は 41,087 円(3/22)であり、ここからの上値余地は限られそうです。

【3 月 25 日 16:55 更新】

NYダウ



【NYダウ日足・エリオット波動分析】

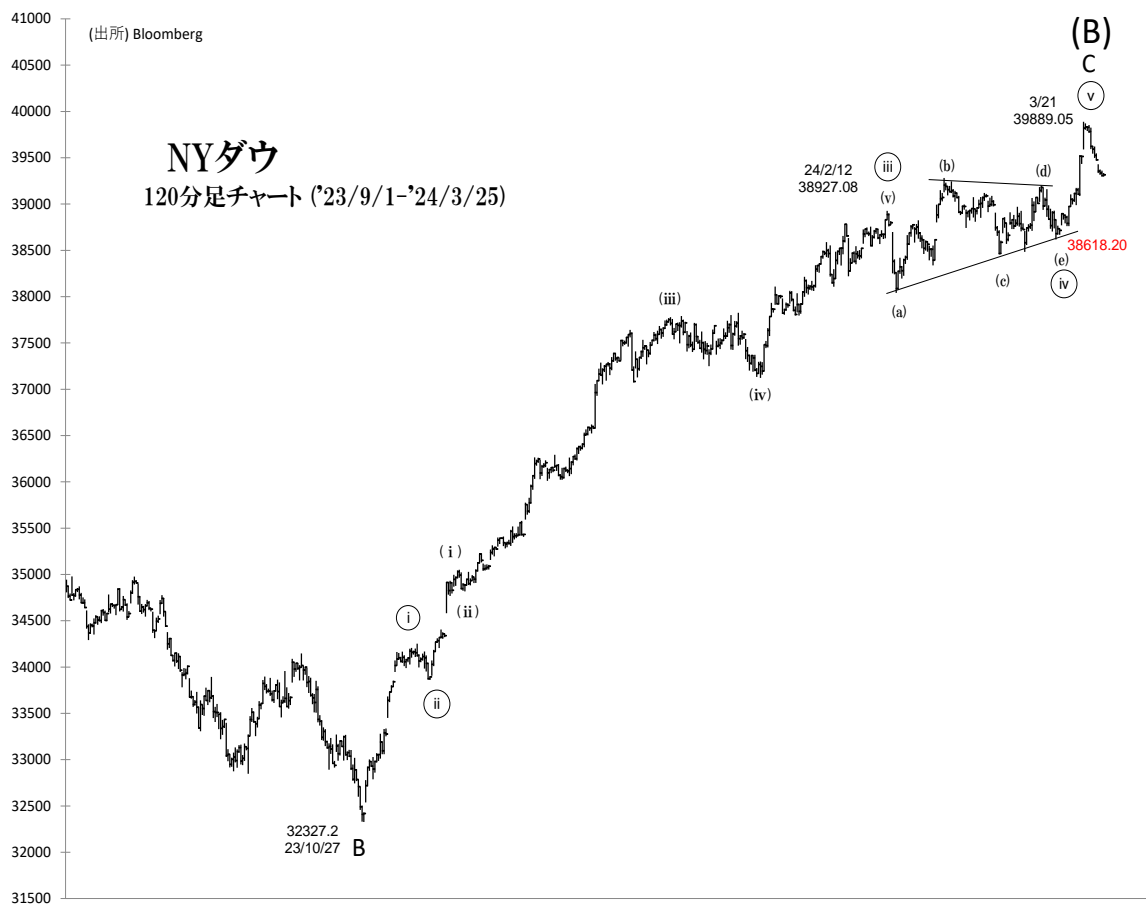
NYダウは22年1月高値(36,952ドル)から、プライマリー級④波が展開中とみています。④波は[拡張パディット・フラット]、[ランニング・フラット]など、複雑なパターンを形成する可能性が高いでしょう。

22年10月安値(28,660ドル)を起点とする上昇は、④波中(B)波による『戻りラリー』に位置付けられます。(B)波はA(↗)-B(↘)-C(↗)の3つの波で構成されます。

23年10月安値(32,327ドル)からの上昇は(B)-C波に当たり、それは終わったか終わりつつある、とみています。

現行(B)波の上昇が終わると(C)波による下落トレンドへの移行が想定されます。

(C)波は5つ波で構成され、それは22年10月安値(28,660ドル)を下回る可能性が高いでしょう。



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

23 年 10 月安値(32,327ドル)からの(B)-C 波による上昇は最終局面にあります。

38,927ドル(2/12 高値)からの高値保ち合いは[ランニング・トライアングル]を形成し、それは C 波中マル iv 波に位置付けられます。マル iv 波は 38,618ドル(3/15 安値)で完了し、そこからの急騰は C 波中マル v 波と読めます。

3 月 21 日には一時 39,889ドルまで上昇しました。それがマル v 波の終点かはわかりませんが、**いつ天井を付けてもおかしくありません。**

なお **38,618ドルを下回ると弱気トリガーが発動し、(C)波による大きな調整がスタートした可能性を高めます。**

ひとたび(C)波の下落に入れば、それは 22 年 10 月安値(28,660ドル)や、さらに下方の水準へと、NY ダウを押し下げる可能性が高いでしょう。

【3 月 26 日 9:21 更新】

ナスダック



【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

21年11月高値からは、プライマリー級第④波に位置付けられます。この第④波の全体像は、[トライアングル]や[フラット]など保ち合い相場が想定されます。

④-(B)波によるリバウンドは終わったか、終わりつつあります。

15,158(1/31 安値)からの上昇パターンは、相場天井に先立つ[エンディング・ダイアゴナル]のようにみえます。この見方は、15,618(3/15 安値)を下回ることによって強化されます。この場合ナスダックは、「速やかに」15,158(ダイアゴナル始点)まで下げる可能性があります。

さらに④-(C)波による調整は続き、ナスダックは21年～22年に相当するスケールで下げ基調を強めていくでしょう。

筆者による想定下値レンジは[12,000-10,000]です。



【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・エリオット波動分析】

22 年 1 月高値 (4068) 以来のパターンは[エキスパンディット・フラット]、あるいは[ランニング・フラット]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

[エキスパンディット・フラット]なら、来る(C)波の下落により、SOX 指数は 22 年 10 月安値(2089)を大きく下回るでしょう。

[ランニング・フラット]だと、(C)波の下落によっても 22 年 10 月安値は維持されます。それでも(C)波のスケールは、22 年の下落(A)波に匹敵する大きなものになると思われます。

3 月 19 日に SOX 指数は一時 4620 まで下げ、8 日に付けた最高値 (5217) からは 11.45%安となりました。下げ率は昨年 10 月からの上昇中でもっとも大きく、重要なピークを付けた可能性が示されています。

(オルタナティブ・カウント)

22 年 10 月安値 (2089) からはプライマリー第⑤波であり、23 年 10 月安値からの上昇は「⑤波-5 波」に相当します。⑤波に続いて起きるサイクル級の調整局面は、2027-28 年まで続くと思われます。

【3 月 26 日 9:34 更新】

米ドル/円



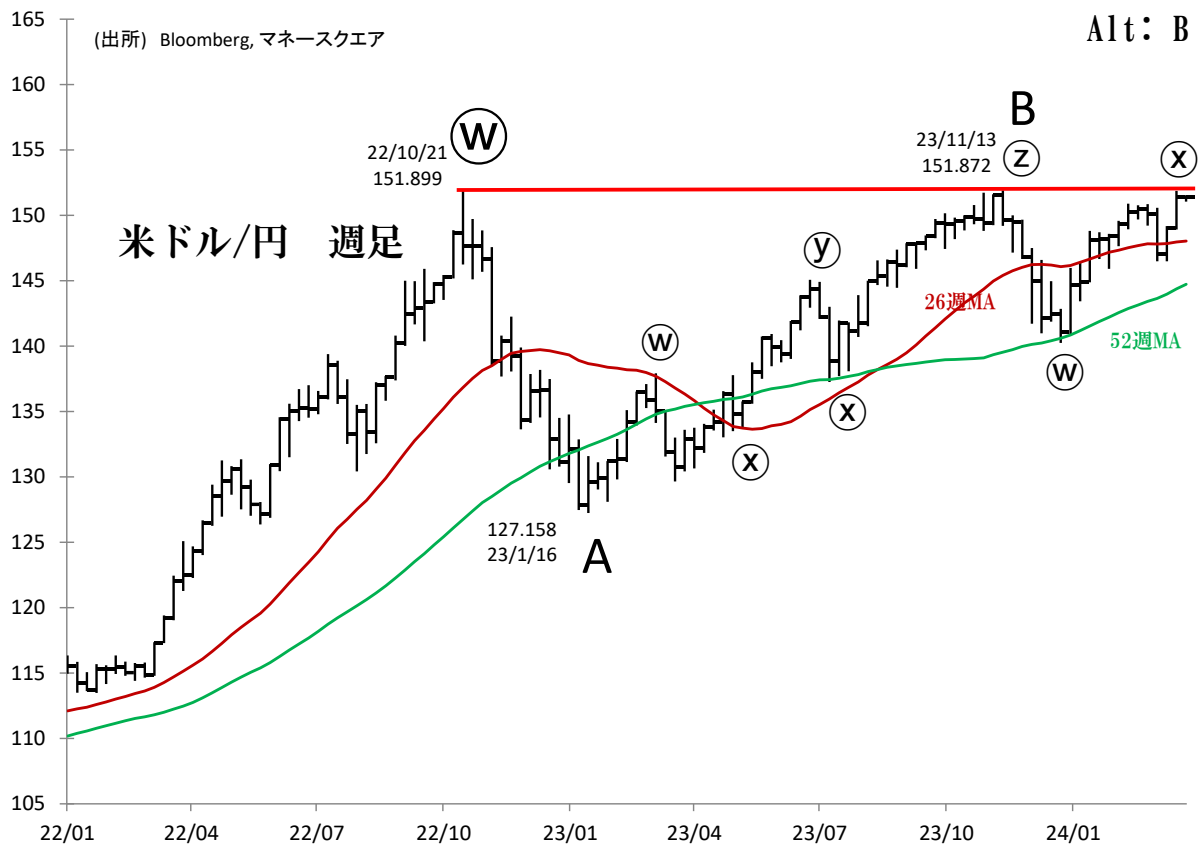
2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安⊗波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこから2028年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。

【月足・エリオット波動分析】

22年10月以来の『円高局面』は、長期円安トレンドにおける中間波・⊗波に位置付けられます。この⊗波は、2028年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するとみています。

23年1月(127.158円)からの⊗波-B波によるドル/円上昇は、151.872円(11/13)を以て終わり、そこからは⊗波-C波による下落トレンド(ドル安・円高)が進行中と思われます※。このC波によりドル/円は、135円-130円を目指すでしょう。

※別の波動カウントについては週足・日足分析などをご覧ください



【週足・エリオット波動分析】

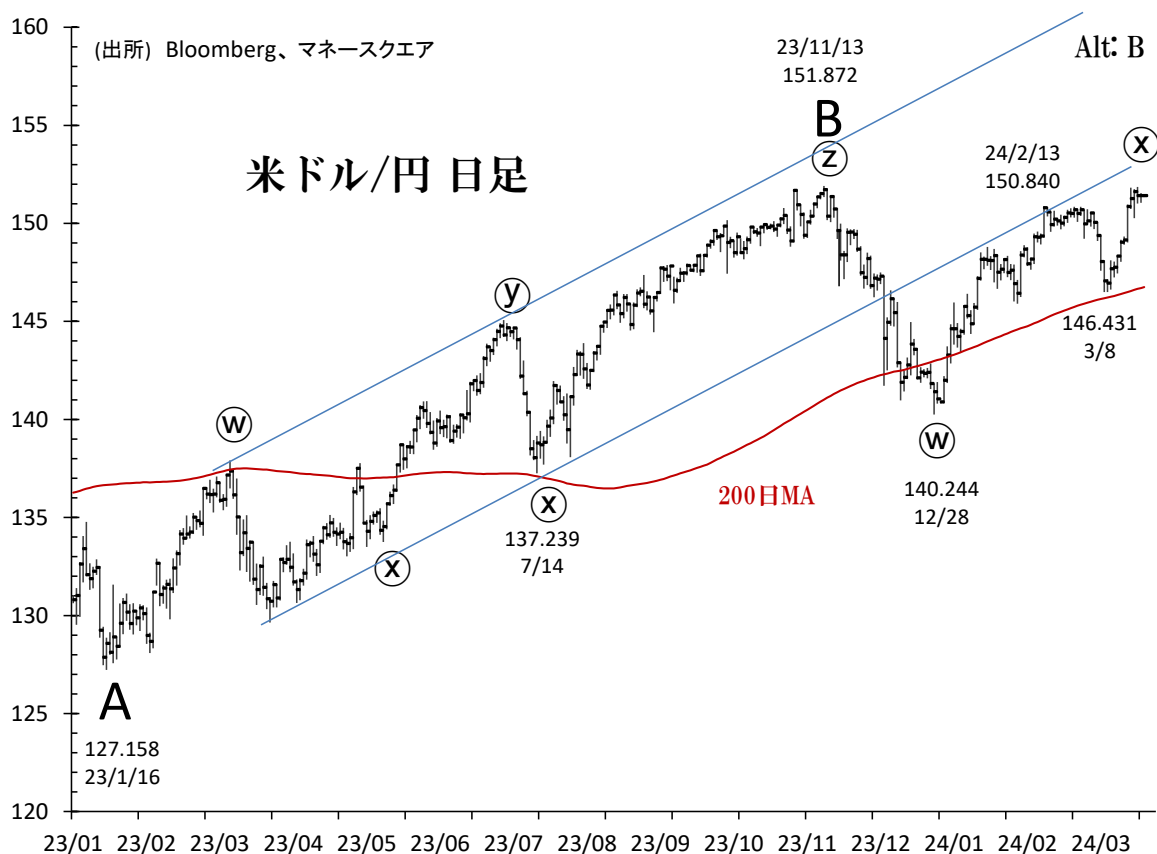
3月22日、一時151.844円と昨年11月の151.872円に急接近しました。

23年11月高値の151.872円からC波の下落トレンド(ドル安・円高)が進行中、というこれまでの見方に疑問符が付いたため(それはまだ完全に否定はされていないものの)、波動カウントを再考します。

まず23年1月(127.158円)以来のドル/円の波動構成は、波の重なりが多いチョッピー(choppy)なものです。これはつまり、過去1年余りのドル/円上昇が推進波(5波構成)ではなく、修正波としてのB波であることを意味するものです。

B波自体が完成していない、ということはあるようです。この場合、**ドル/円は一時的にも152円-154円を付ける可能性があります**。ただしそれは不規則天井[イレギュラートップ]であり、その動きを以てB波は完成します(チャート上ではAltと記しています)。

このB波を経て、C波によるドル/円下落が始まることとなります。この**C波によってドル/円は、おそらく[135円-130円]を目指すでしょう**。



【日足・エリオット波動分析】

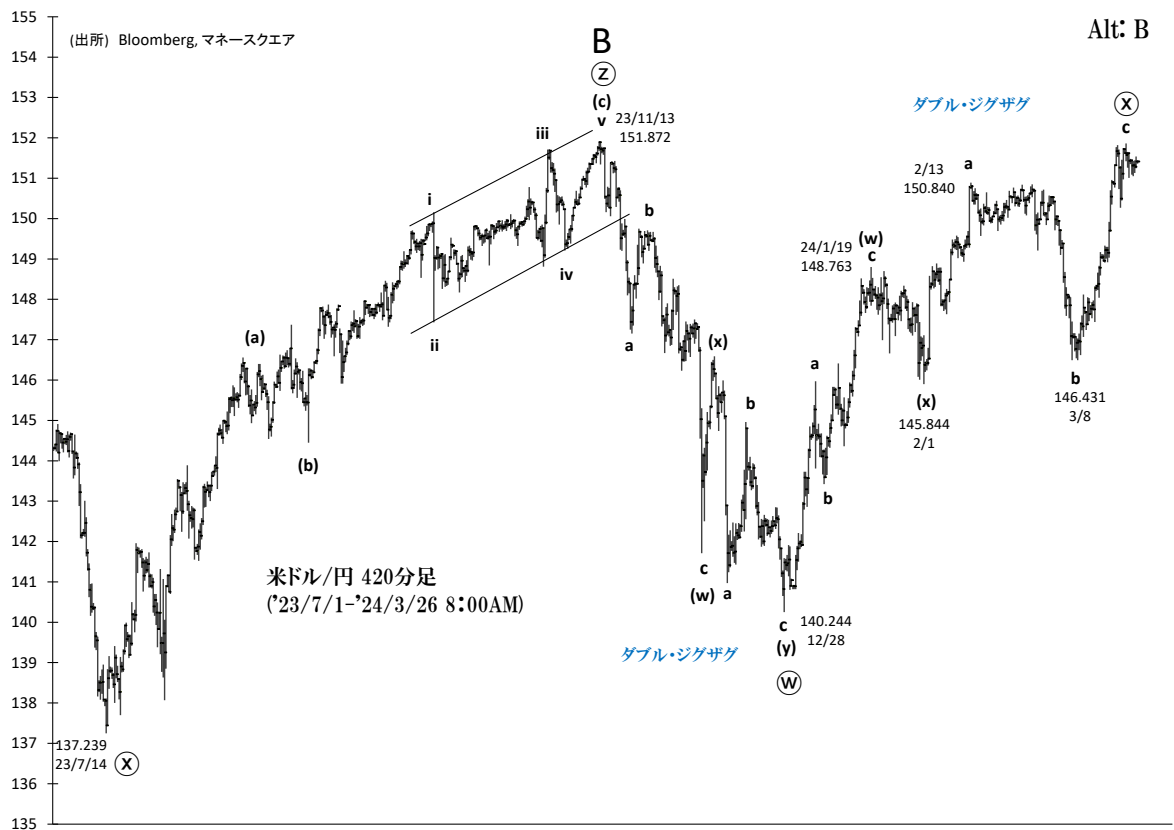
現在、波動カウントには複数のオプションがあります。主なものとしては以下に示す二通りです。

(波動カウント 1)

151.872 円(11/13)からは C 波によるドル安・円高です。140.244 円(12/28)から足元までのリバウンドⓧ波は間もなく終了し、140.244 円を下回る展開となるでしょう。

(波動カウント 2)

いったんドル/円は 151.872 円を上回り、不規則天井[イレギュラートップ]を形成します。それを以て、23 年 1 月以来続く修正波・B 波は終わります。その後は C 波によるドル安・円高の流れとなるでしょう。



【時間足・エリオット波動分析】

140.244 円(12/28)以来のドル/円上昇「(X)波」は[ダブル・ジグザグ]であり、146.431 円(3/8)からは 2 番目のジグザグ(a-b-c)における c 波とみなします。

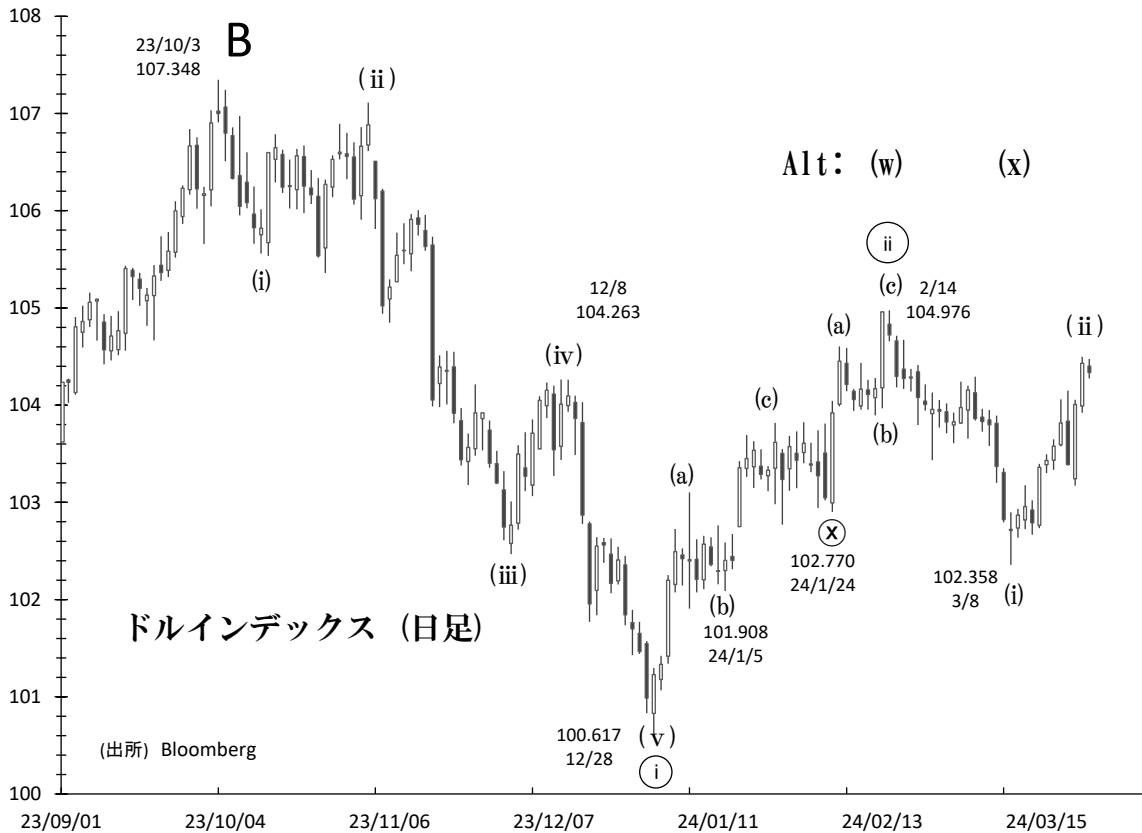
c 波は昨年 11 月高値(151.872 円)を一時的に上回るかもしれません。

例えば(X)波内の二つのジグザグが等しく上がると仮定すると、上値メドは[154.363 円]になります。

(X)波終了後には(Y)波によるドル/円下落が見込まれます。それは 140.244 円を試すことになるでしょう。

【3 月 26 日 8:55 更新】

ドルインデックス (ドル指数)



【日足・エリオット波動分析】

23 年 10 月高値(107.348)からは C 波によるドル安に位置付けられ、この C 波は 5 波構成(マル i 波～マル v 波)になります。

104.976(2/14)以来、マル iii 波によるドル安トレンドが進行中とみられ、さらに 102.358(3/8)からは、マル iii 波中第(ii)波のリバウンドと思われます。この見方によれば、ドル指数はまもなくリバウンドを終えて第(iii)波の下落を始めるでしょう。

重要な高値や安値というのは、「第 3 波」によって破られることが珍しくありません。

おそらく現行マル iii 波によって 23 年 7 月安値(99.578)は破られ、[98.245]が試されるでしょう。

[98.245]…マル iii 波がマル i 波と等しく下がる水準

(オルタナティブ・カウント)

昨年 12 月以来のマル ii 波が依然進行中です。この見方によると、ドル指数はいったん 104.796 を上回るでしょう。その動きを以てマル ii 波は終わり、マル iii 波の下落局面に移るでしょう。

【3 月 26 日 8:03 更新】

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
